

ニュージーランド英語におけるマオリ語 (IV)

横瀬 弘幸*

Aspects of the Maori Language in New Zealand English (IV)

YOKOSE Hiroyuki *

Abstract

In daily conversation in New Zealand, the Maori Language comprises only five percent. In fact, however they use and speak lots of Maori Language, words and phrases, everywhere.

This paper examines the grammar of the phrases, the causative prefix whaka- and derived universals, the pseudo-verbal continuous with i te and kei te, complex phrases, subordinate clause with kia, interjections and interjectory phrases.

抄 録

ニュージーランドにおけるマオリ語の存在は確実に生活の中にある。使用範囲は一割近いと思われる。前回に続きどのくらいマオリ語が生活の中に受け入れられ、借用されているか文法的見地から検証してみる。

キーワード：接頭語、命令法、定冠詞、感嘆詞、感嘆詞句

1. 接頭語

whaka を接頭に置き、普遍的に由来する。言い換えると、名詞などの基本的なものは接頭語 whaka を伴う。名詞などは替えられるが、すでに普遍的な層は変わらない。Whaka を接頭辞に於いてその差異は、同じ動詞が他動詞または自動詞として使用される意味の違いで示されている。例えば下記の tupu をみてもわかる。

whakatupu-ria	grow (他動詞)
tupu-ria	grow (自動詞)
tuu-ria	stand
whakatuu-ria	set up
noho-ia	sit
whakanoho-ia	set in place
moohio-tia	know

* 情報コミュニケーション学部情報メディア学科、Tsukuba Gakuin University

whakamoohio-tia instruct

名詞と whaka を接頭にした名詞は普遍性にと換えられ、形を整える。そして、条件や状況は基本的な形で示される。

Tata be near
whakatata-ngia approach

kino be bad
whakakino-tia make bad

rite be like
whakarite-a equal

tika be straight
whakatika-ngi make straight

mate be dead
whakamate-a kill

whaka を接頭にして、位置付けの意味を示す。すなわち、位置を示す whaka は方向性を意味する。そして、この形は通常二番目に使われフレーズとして用いられる。

titiro whakawaho look outwards
haere whakamuri go back

時折 whaka の方向は南を示す。Whaka-te-tai-tonga として接頭語とされる。Whaka-te-auranga-waka はカヌーが停泊しているところへを意味し、ka titiro whaka-te-moana te iwi ra はその部族が海の方を見た意味である。基本的に whaka はほとんどの場合発音されるが、あたかも発音されない分詞のようである。このように見せる whakai は子供としての tamaiti と韻をふまない。Whakaiti は iti の第一音節で発音され、それゆえ whaka は本質的には発音はされない。

tamaiti は ai にストレスを持つことはルールにそっている。言い換えれば、whaka は発音が目的であり無くてはならない語の一部として扱われている。彫刻する意味の whakairo は tamaiti のように発音される。羞恥心を意味する whaka が基を成すかのように発音され、第一音節にストレスが置かれる。一息入れる、休む、意味の whakataa と比較すると、taa にストレスが置かれる。例えば、ストレスは鋭敏なアクセントによって whaka という語を目立たせている。

一息入れる、休む意味の whakataa と比較すると taa にストレスが置かれる。例えば、ストレスは強いアクセントによって whaka という語を目立たせている。

Ka mea a Wairaka, Kia whakataane ake ahau.

Wairaka は一人の男として振舞わせてくれと言った。

Ka takaia te tuupaapaku, ka whakairia ki runga ki teraakau.

体はその木に雁字搦めにしばられた。

Na wai koe i ako ki te mahi whakairo?
誰が彫刻をあなたに教えたの？

Ka whakareri nga tamariki ki te haere ki Rotorua.

子供たちはロトルアに行く準備をした。

I te iwa o nga haaora i te ata o te Raatapu, ka whakahaeretia te karakia o te Koroneihana.

日曜日朝 9 時に戴冠式が教会で行われた。

2. Lest や don't を意味する kei

不変化詞 kei は普遍性を前もって位置づける。kei で始める節はときおり kaua と始める否定的命令法に従う。kei の使用は下記の例に良く表れている。

Kaua e piki raakau kei taka koe!
落ちるといけないから木に登らないで。

Ka kii atu te waeroa ki te namu, Kei riri taaua i te awatea, ka nui te mate.
蚊はハエに日中は人を襲うのを止めよう、我々がやられるからと言った。

3. i te と kei te と一連の偽動詞派生形

現在を示す kei 前置詞と過去の i は時々単数の定冠詞 te と共に用いられる。e と作られる時制として、同じ意味形成されるために普遍性をもたらす。そして、英語で云う時制-ing によって翻訳される。しかしながら、e.....ana の構文は現在、過去、未来に及び、i te は過去だけに言及され、kei te は現在または未来に使われる。

Kei te aha a Hata?
Hata は何しているの？

Kei te koorero ia.
彼は話をしています。

Kei te whakato i tonu a Rewi ki a Tamahae.
Rewi はいまだに Tamahae を苛めている。

Kei te haere koutou ki Poihaakena aapoopoo.
あなたは明日シドニーに行かれます。

I te aha nga tamariki inanahi?

子供たちは昨日は遊んでいました。

偽動詞の受身の普遍性は、受動的、能動的にも用いられる。

Kei te kataina a Rewi e Tamahae.
Rewi は Tamahae に笑われている。

様々な表現の中で、東地区における動詞の継続性は e.....ana であるが、西地区では時制に用いられ、一般にも普及している。そして、北オークランドおよび中央 (plateau およびその範囲) 全域までに及ぶ。東地区の部族の一般的挨拶は英語で云う How are you? と同じ意味をなす kei te peewhea koe? また、kei te peewhea koe? も同じ意味で使われるが、What are you doing? の意味もある。北オークランド地区は e peehea ana koe? と短縮した形が一般的である。

Kei の発音は kai とも書かれ東地区の方言ともなり wanganui 川地域においても使用されている。どの品詞も kei または i は否定にされ、フレーズとして使われる。

Kei te kuti hipi a Paeko. Kaahore a Paeko i te kuti hipi.
Paeko は羊の毛を刈っている。Paeko は羊の毛を刈っていない。

Kei a Hata te hooiho o Paeko. Kaahore te hooiho o Paeko i a Hata.
Hata は Paeko の馬を飼っている。Hata は Paeko の馬は飼っていない。

Kaahore a Tamahae i te whakarongo ki a Hata ma.
Tamahae は Hata そして他の人の言う事を聞いていない。

4. 混合句における限定、その会話例

この句は英語で言う new house を te whare houu と表すが、一つの意味で無く混合句を含み他の意味もある。論理的にはその句が限られることはない。実際には二つの基本的な句はありふれているが、三つの句のほうが最もありふれている。しかし、三つの句以上に時折起こりうる句もある。

どのケースも二つの位置を含むものとして、複合句の核として、見なされ、手助けとなる。最初の位置はその基となるものまたはその二つ目の位置によって変更され唯一のもので満たされる。

Te tangata pai.

いい男。

I tangi tuu te wahine.

その婦人は立って泣いていた。

E tangi hotu ana te wahine.

その婦人はめそめそ泣きじゃくっていた。

Ka tangi haere te wahine.

その婦人は歩きながら泣いていた。

Ka rere tiitaha te manu.

その鳥は左右に飛ぶ。

5. 無頭語句における i と ki の意味とその使用

i と ki はたびたび出来る品詞で、二つとも異なった構成に用いられ、読者にはパズルのような異なった意味を成す。この部分に於いて、何らかの結果に区分され、無頭語句を成すときこれら二つの品詞の機能すなわち文章の意味を述べ伝える。

Toward の意味として、ki は～の方向、

～に、基本的に意味している。この意味は動作が示されない時でも本来使用は備わっている。実際に go を意味する haere, return を hoki, enter を tomo, run を oma, fly を rere, ki は動作の目標を示し又方向を示す to に訳される。

E hoki ana au ki te kaainga.

私は村に行くところです。

Hoki atu ki to whenua!

国に帰りなさい!

Ka rere a Tainui ki taawaahi o te moana.

Tainui は海の反対側に航行した。

実際の動作を暗示しない多くの普遍性と我々は目標に向かって指示されている動作を容易に想像できる。look としての titiro, call を karanga, weep を tangi, fight を whawhai, remember を mahara, question を paatai となる。コメントは、もし俳優から分離されている目標であれば ki によって常に紹介される。そしてその動作が再帰であれば asking a question とか thinking a thought のようにその内容は I により紹介される。

E mahara tonu ana au ki oo taaua tuutakitanga i nga waa o mua.

私は過ぎた日の会議をたえず思い出している。

Ka titiro mai ia ki tooku kaakahu.

彼は私の着ている服装を見ている。

又動作が含まれないような ki の選択は多くの場合 ki を目標として選ぶが内容にある動作や方向を考えるのは英語的発想をする者には難しい。

Know として、moohiro, desire の hiahia, be-

lieve の whakapono, agree の whakaae, disagree の whakahee など、全て目的を示す ki と共に用いる。

E moohio ana au ki a ia.
私は彼を知っている。

Ka nui tana hiahia ki te wahine ra.
彼の欲望は彼女のために名士になることだ。

E whakahee ana au ki ta raatou koorero.
私は彼らが言っていることに反対です。

i における普遍的動作を意味するのは英語の from と同じ意味で、その場合 towards の意味の ki と away from の意味としての i の間に対照的に置かれる。

I haere mai au ki te whare.
私は家に来た。

I haere mai au i te whare.
私は家からきた。

次に、受動動詞句は ki によって導かれ、動作が行われる手段により with, by が使われる。

Ka topea te raakau ki te toki.
木は斧で切り倒された。

Ka kitea te tangata ki nga tapuwae.
その男は足跡で見つけられた。

能動動詞句は ki において手段となる注釈を取るかもしれない。しかし、この場合 i の注釈は現在形である。

Ka tope ia i te raakau ki te toki.

彼は斧を持って木から落ちる。

i において、その使用の幅広さ全てを満たす基本的な意味を暗示するのは可能ではない。ここで何を区別されているか一つの試みがある。

少なくとも英語を話す人々にとっては i の意味は違ったように思える。異なった環境では適切な訳を暗示するのはかなり難しい。

i により紹介される動作の概念の暗示は無くそれは動作の目標を示す。そのような目標は英語では直接目的語か前置詞句で示される。英語とマオリ語の構文上の違いがある。

Ka noho teeraa tangata i toona whare.
その男は自分の家で生活した。

Kei te tiki a Rewi i nga kaawhe.
Rewi は子牛をつれにいつてくる。

Kei te patu a Tamahae i nga kau.
Tamahae は牛を叩いている。

Kaahore taua wahine i kite i te hiku o te taniwha.
その女性は化け物の尻尾は見なかった。

Kua rongo iho te wahine nei i te kaha o te ngongoro o te ihu.
その婦人は凄いいびきを聞いた。

i は状況や基本によって示された状態どちらかを示す。その際、by や because of の意味で訳される。すなわち状況や状態の位置で、at, in, on, from など適切な訳をつける。

Ka paa te aawangawanga ki taane kei riro tana tamaiti i te iwi o te moana.
その亭主は子供が海賊に連れ去られないか心配した。

Pau atu a Toi me Uenuku, me to raaua iwi i te ahu.

Toi と Uenuku と人々は火事で焼き尽くされた。

Ka putu raaua i te waharoa o te marae.

彼らは marae の出口に現れた。

6. 命令法の動詞

命令法は動詞 *kia* と命令法の抑揚により成り立つ。例えば、

Kia Kaha! Kia toa! Kia Manawa-nui!
強くなれ! 勇敢であれ! 確固たれ!

Kia tere! Kia ngaawari!
早く! 従順であれ!

Kia tuupato! Kia uu!
気を付けて! 引き締めて!

否定の命令文は常に警告の感覚を持ち *stative* の前に *kei* 品詞によって形成される。

Kei whara koe! Kei mate koe!
怪我をしないで! きをつけて!

Kei taka koe! 落ちないで!

Kei kaha te pupuri i nga mea na!
それらをあまり強く持たないで!

7. *Kia* の従属節

異なった行為者の従属節を含む複文である。例えば、*We come here so that you will learn Maori.* この文の場合、*We come here.* は主文でありなおかつ、節でもある。*so that you will learn Maori* は従属節である。例文の

中で、*we* は従属節の *you* における登場人物とは異なる。*We* は別に人物としての状況にたとえられる。*Maori* 従属文における異なった登場人物は *kia* の中で動詞句をとることは通説である。従って、私達 *Maori* のセンテンスは *ka haere mai taaua ki konei kia ako koe i te reo Maori* となる。他の例をみる。

Ka karangatia mai maatou kia haere.

我々は行くように呼ばれた。

Ka haere taatou ki te paa kia kite au i aku tamariki.

我々は私の子供たちに会うため村に行きます。

従属文の状況や動作を示すために、動詞句に *ai* を前もって適当な位置に置く。従属文の異なった登場人物に *ai* をもたらす。

Ka haere mai taaua ki konei kia ako ai koe i te reo Maaori.

私たちはここにいるからあなたはマオリ語を学ぼう。

Tooia ake te tatau kia uru mai ai te hauhau ki a au.

ドアを開けて、そうしたら風が私のところに来るから。

8. 定冠詞

定冠詞は次の状況に於いて代名詞と共に使う。

1. 主語として表す時、人称と共に用いる。
2. *ki, i, kei, hei* に従う時、人称と共に用いる。

発音について云うと、定冠詞 *koe* と *ia* は *kiaakoe, kiaaia* のフレーズにストレスをとり、*aa* と長く発音する。定冠詞 *au* の固有名詞は

aau のように最初の母音にストレスを置く。aau の結合は your と同じ aau と同音意義語であるが、区別は書き言葉において維持されている。

He mea puhipuhi a runga ki te puhu kereruu.
てっぺんは鳩の羽で飾られていた。

E puare katoa ana a roto.
内側は全てくぼんでいた。

Ka mea atu a Tinirau.
Tinirau は言った。

Ka titiro a Kae.
Kae は見た。

Ka kite atu ia i a Paania.
彼は Paania を見た。

He tauraga tapu teeraa i te waa i a raatou.
釣り場が時間制限された。

Hoomai ki a au!
私にください。

継続的な不変化詞 ana は動詞句の中で使い、その位置づけは直接的な不変化詞に従う。また ana は位置づけを示す nei, na と両立もしないし、相容れない。方言として、e....ana の時制は西側地区の特徴、特に北島地区である。西地区は特に kei te と i te と共に擬似動詞によって置き換えられる。

Ana のある談話形式で、ana は時々不変化詞を持たない動詞句の中に置かれる。この使用は談話形式を示すものである。適切な訳は次のコンテクスに見られる。

Kae haere atu a Kae i a Hine raaua ko Raua, ka tae ki kaweto raaua Kaainga. Na,

kawea ana e raatou a Kae, ka whakatakotoria ki te pou Tokomanawa o te whare o Tinirau.

Kae は Hine と Rau と一緒に行った。それから、Kae は Tinirau の家の柱のところに運ばれ、横たわった。

Ana を示す例をみる。

Ka mahara te wahine ra kua mate toona taane;haere ana ki te rapu, ka kitea ia e takoto ana,kua mate- kaaore i mate rawa. Wahaa ana e ia ki too raaua whare, ka horoia oona patunga.Ka haere te wahine ki te tiki wahine, ka mea atu a Taawhaki,Ka kite koe i te raakau roa e tuu ana, turakina, ka amo mai.

その女性は亭主が亡くなったと思った。夫を探しに行ったら、彼が負傷しているのを見つけた。彼女は彼を家に運び、傷口を治療した。そして、薪を取りに出かけた。Tawhaki は、あなたはあの背の高い木がみえるでしょう。その木を倒し、ここに持ってきてくださいと言った。

ka....ana の条件時制は ka と共に句の中にある ana は条件時制を形成する。

しかし、それは ka で始める動詞句による。

Ka haere ana koe, ka mahue pani maatou.
あなたが行けば、我々は孤児のようになってしまいます。

Ka riri ana te tangata ra, ka tetee oonaniho.
その男は怒り歯ぎしりをしている。

Ka haere mai ana te Kuini ki Niu Tieni, ka atituaa te iwi Maaori.

女王がニュージーランドに来ると、マオリ人は災難にみまわれる。

Kei...ana は英語の while の意味を持つ。例えば、

Me haere taatou kei pai ana te raa.
晴れている間に出かけよう。

I te waa i mua ra, kei hine ana au.
私が一少女だった時も過ぎた。

Pai ana ki te koorero atu!
言ったのはよかった。

Rere kee ana ki te titiro atu!
見るのは変だった。

Kino ana ki te whakarongo atu!
聞くのが怖かった。

9. 感嘆詞と感嘆詞句

感嘆文の抑揚を持つ文で始める句など基本的な決まりを持つ。感嘆詞のとその句は次のようになる。na は今や、その時を意味し、非常にありふれていて、生き生きとした談話に用いられる。

Na, ka tere haere nei a Hinauri i te moana.
それから、Hinauri は海にただよっていた。

Na, ka rewa te ope a Ngaati Awa.
その時Ngaati Awaのパーティが始まった。

Kaatahi は then の意味を持ち、kaatahi anoo は第一に、ついに、正になどの意味を持つ。Kaatahi anoo を主語で始める文は特に動詞句と述部を前に置く。そして、常に動詞 ka をとる。

Kaatahi ia ka hoki atu ki te kainga.
その時彼が帰宅した。

Kaatahi anoo au kua tae mai.
私は丁度着いたところでした。

Kaatahi ka tae te rongo ki nga iwi katoa.
それから知らせが全ての部族に届いた。

しばらくして、などの意味を持つ Aa は感嘆文よりむしろ、ためらいを表す語と抑揚が関連している。文語体ではコンマで区別される。

Aa, i muri iho i taua tautohetanga ka mea mai a Taranga.
それから、その議論後 Taranga は言った。

Ka utaina nga utanga o ia waka, o ia waka, aa, ka ruupeke ki runga me nga taangata.
馬車はカヌーを積み、人々全員が乗り全てととのった。

英語の as if や like の意味を持つ anno は人により aanoo と発音される。

Anoo ko te whetuu ka puta akei i te pae, nga karu o te tangata ra.
それは星が地平線に現れた様子だ。

Ko te kanohi, anoo he rangi raumati.
顔は夏の陽を浴びたようだった。

Te putanga ake o te raa, anoo he ahi e toro ana ki te whenua.
日の出はまるで地球全体に広がっていく火事のようなようだった。

注視、見守る、意味の Anaa! と Anana! は次のように使われる。

Anaa! Ka wehi taua iwi ki oona kanohi.

見て！あの人たちは彼の目に驚いたよ。

しかしながら、しかも、などの意味を表す
Otiraa! は下記のようなものである。

Noona anoo taua kaainga; otiraa, no maa-
tou katoa.

その土地は彼のものであるが、我々みんなのものでもある。

ちょっと待って！を Taihoa! と言う。

Taihoa taatou e haere!

行く前にちょっと待ちなさい。

Taihoa, Tamahae!

待て！ Tamahae!

感嘆詞句はしたがって、～とか、それゆえ、の意味を持つ。

Heoi ka mate a Maui. Oiraa, mate rawa
ake ia, kua tupu oona uri.

その結果 Maui は死んだのだ；けれど子孫は増えた。

Heoti anoo ka haere raatou.

次第に彼らは出て行った。

Heoti anoo ka ea te mate o Tuu-whakararo.
結果として、Tuu-whakararo の死は復習された。

英語で言う indeed, it is case that, そして、
here is を表す koia, koia nei, koia na, koia ra, などの表現方法を次に考察する。

Koia pea teenaa? Aae koia anoo.

多分それはそれですか？はい、おっしゃるとおりです。

Koia te take i kitea mai ai ahau, he whai
mai i taku paaua.

それが私がここにいる理由です。

次は挨拶について云うと、Maori の挨拶は
Kia ora! が定番である。一日に何回となく耳にする。別れの時も使う。しかし、正式には別れには Hei konei! と云う。e noho ra! ここ、またはそこにいなさい！の意味で親が子供に使う表現でもある。

また、しばらくして、の意味で Naawai, aa, を使う。

Naawai, aa, ka nui noa atu toona rongo, pa-
kuu ana ki nga iwi katoa.

しばらくして、彼の名声は偉大になり、
全ての部族へと鳴り響いた。

Naawai, aa, ka mimiti noa iho te mano ra.
しばらくして、大多数が少なくなった。

だから、それゆえ、などの理由を表す表現
に、ina ake anoo, ina hoki が使われる。

Ina ake anoo i haere ai te te rongo o teenei
wahine.

だから、この婦人の名声が広まった。

Wheetero atu ana te arero o te tangata
wero. Ina hoki ra tana ariki.

儀式で挑戦者の言葉は wheetero では特
質であった。というのは、これは長としての彼だったからである。

参考文献

- Bruce Biggs Let's learn Maori A guide to the Study
of the Maori Language 1969 Auckland Univ.
Bento, R. The history and development of the Maori
Language 1991 Wellington Government Printer

Ngata, H.W. English Maori Dictionary 1993 Auckland
and Reed Books

Williams, H.W.A. Dictionary of the Maori Language
1971 Wellington